

入賞された皆さんおめでとうございます ～「図画コンクール」入賞作品決定～

当発電所では、未来を担う子どもたちの「想像力」と「考える力」を育み、個性や才能を伸ばすお手伝いをしたいという思いから、毎年、小学生以下の皆さんを対象とした「東北電力図画コンクール」を開催しています。

12回目となる今回のコンクールには、過去最多となる5,012点もの作品をお寄せいただきました。審査の結果、甲乙つけがたい力作の中から最優秀賞1点、優秀賞7点（以下に紹介）を含む37点の入賞作品が決定しました。

2月8日から16日まで、イオンスーパーセンター石巻東店（石巻市流留）で、入賞作品をはじめ一次審査を通過した200点の作品展を開催しますので、ぜひこの機会に、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみください。

最 優 秀 賞



「海底清そう魚」
飯野川第一小学校5年 木村 一意さん
人間が捨てたごみから生まれた悲しい魚です。海底のごみを食べて、海をきれいになっています。

優 秀 賞



「ひかりのさかな」
飯野川第一小学校1年 阿部 遥介さん



「くじらのくだものやさん」
小野保育所 貴田 智実さん



「伊達金魚」
釜小学校6年 小林 麗朱さん



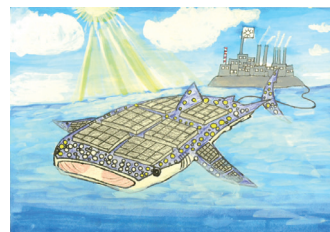
「スタンドグラスの巨大イカ」
石巻小学校5年 渋川 千里さん



「しんぶんにつくったよ」
中里小学校1年 丹野 一花さん



「世界遺産、富士山ヤドカリ」
湊小学校3年 村岡 諒彦さん



「自家発電ジンベイザメ」
湊小学校6年 村岡 路真さん

《「こんにちは人形劇」を開催しました》

女川町立第一保育所、石巻市立鮎川小学校の2会場で、地域の保育園児、小学生を対象とした「東北電力こんにちは人形劇」を開催しました。

今回は、自然との共生を大切にしている小人の物語「コロボックル」（女川会場）と切ない友情物語「やさしい赤おにと青おに」（鮎川会場）を上演しました。

鮎川小学校には、同小学校仮設住宅にお住まいの皆さまにもおいでいただき、子どもたちと一緒に人形劇を楽しんでいただきました。



▶ 10月22日、「コロボックル」を女川町立第一、第四両保育所の園児約150人が観劇しました。園児たちは人形と一緒に体を動かしながら、楽しんでいました



▶ 10月23日には、石巻市立鮎川、寄磯、大原、東浜の各小学校児童と牡鹿、萩浜両保育所の園児等約100人を対象に「やさしい赤おにと青おに」を上演しました

《地域の「バレーボール大会」に参加しました》

10月13日、女川町総合体育館において、「第1回オールフリーバレーボール大会」が開催され、当発電所からも若手を主体としたチームが参加しました。

大会には、女川町内の7チーム約70人が参加。日頃の練習の成果を発揮し、熱戦が繰り広げられました。



《がれき撤去用重機「バックホウ」を2台導入しました》

当発電所では、万一、津波により発電所構内にがれきが入り込んだ場合に備え、これまでに、がれき撤去用の重機として「ホイールローダ」を2台配備していましたが、これに加えて、今回新たに「バックホウ」を2台導入しました。

今後とも、さらなる安全性向上のため着実に安全対策を進めてまいります。



▶ 従来からあるホイールローダ



▶ 全長約9.4m、全幅約2.8mのバックホウ

《1号機運転開始30年を前に 高経年化技術評価を実施し、長期保守管理方針を策定しました》

1号機が、平成26年6月1日に運転開始（昭和59年6月）から30年を経過することから、法令に基づき、冷温停止状態（原子炉内の温度が100℃未満で安全に運転停止している状態）を前提とした高経年化技術評価を実施するとともに、長期保守管理方針を策定しました。

評価の結果

これまで実施してきた保全活動の継続により冷温停止状態を維持するために必要な機器・構造物の健全性を確保できることを確認しました。

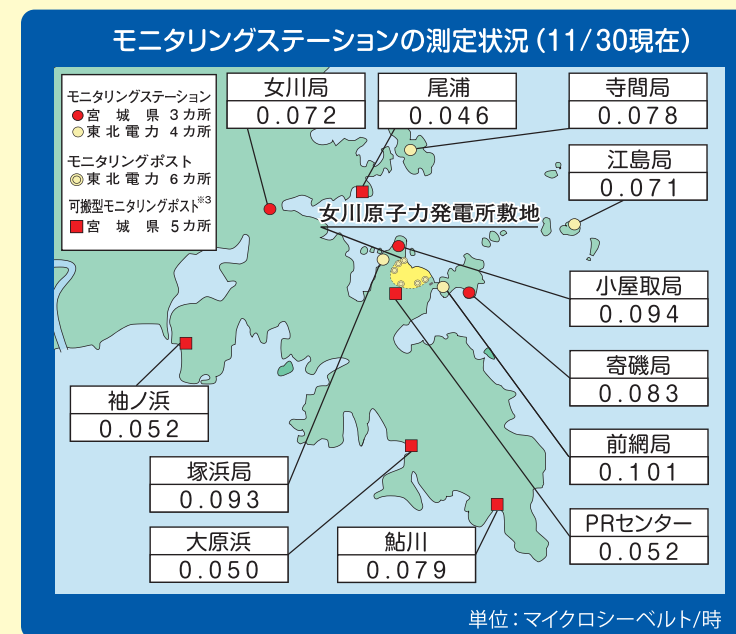
今後の方針

今後の保全活動をより充実させるための長期的な保守管理方針として、新たに熱交換器の肉厚測定等を実施することにしました。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.068マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



モニタリングポストの最小値と最大値

年	測定日	測定値 (μSv/h)
平成23年	3月11日	0.027～0.064
	3月13日	1.8～21※4
平成25年	6月1日	0.052～0.073
	7月1日	0.051～0.071
	8月1日	0.048～0.076
	9月1日	0.051～0.078
	10月1日	0.049～0.071
	11月1日	0.049～0.068
	11月30日	0.049～0.068

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、至近6カ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

《1号機原子炉建屋天井クレーンが復旧しました（続報）》

1号機原子炉建屋に設置している天井クレーン※の4カ所ある走行部のうち1カ所の走行部の軸受が損傷していることを確認していました。

（平成24年7月号でお知らせ済み）

原因調査の結果、この損傷は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものと推定しました。

同走行部を含む全ての走行部については、同様の事象が発生しにくい構造の軸受を採用した新品に交換しました。

※天井クレーンは、原子炉建屋最上階に設置され、主に新燃料や原子炉格納容器・原子炉圧力容器の蓋などを吊り上げるための設備。